

2024年7月23日

各位

会社名 株式会社 リボミック  
代表者名 代表取締役社長 中村義一  
(コード番号: 4591 東証グロース)  
問合せ先 財務経理部長 今井利哉  
<https://www.ribomic.com/contact.php>

## 東京大学との眼科疾患に関する共同研究契約締結のお知らせ

株式会社リボミック（東京都港区、代表取締役社長 中村義一）と国立大学法人東京大学医学部眼科学教室（東京都文京区、研究代表者 教授 相原一、以下「東大眼科学教室」）は、この度、アプタマーの眼科疾患に対する薬効を検討するための共同研究契約を締結しましたのでお知らせします。

アプタマーは眼科疾患に適したモダリティであることから<sup>註1</sup>、当社は眼科疾患を臨床開発における重点領域の一つと定めております。当社では、眼科疾患に関連するタンパク質に対するアプタマーを複数所有しており、これらの薬効薬理評価を通じて新たな医薬品開発に取り組んでおります。また同時に、眼科疾患における薬効薬理評価の推進には高度な専門知識と技術が必要となることから、これらを保有する大学研究機関に対して共同研究の可能性について協議を行って参りました。

東大眼科学教室では、主要な眼科疾患である緑内障や糖尿病網膜症などにおいて、基礎研究から臨床に至るまで多くの研究および治療実績を有しております。また、新たな治療法の開発研究にも取り組んでおり、緑内障におけるオートタキシン<sup>註2</sup>高発現を明らかにする等、眼科疾患に関与するタンパク質の同定や、それらの阻害剤の探索と動物モデルを用いた薬効評価研究も推進しております。今般、当社と東大眼科学教室の間で、治療標的タンパク質に関する方針の一致が見られたことから、当社所有アプタマーを東大眼科学教室が所有する各種評価系を用いて評価するための共同研究契約の締結に至りました。

なお本共同研究は2年間の予定で、契約の締結に伴い、リボミックは東大眼科学教室に対して研究費を支払いますが、本件による2025年3月期業績への影響は軽微です。

<sup>註1</sup>世界初のアプタマー医薬品となった Macugen<sup>®</sup>（抗 VEGF 薬）や近年承認されたアプタマー医薬品 IZERVAY<sup>™</sup>（抗補体 C5 薬）はいずれも wet AMD（滲出型加齢黄斑変性）や dry AMD（萎縮型加齢黄斑変性）などの眼科疾患に対する硝子体内投与薬です。当社の umedaptanib pegol (RBM-007)も wet AMD に対する治療薬として臨床 POC が確立できたことを考えると、アプタマーは眼科疾患にフィットするモダリティ（治療手段）であるこ

とが強く示唆されます。また、硝子体内投与の医薬品は安全性に優れており、投与薬剂量も微量で済むことが利点となります。

註<sup>2</sup>オートタキシン (Autotaxin) は脂質メディエーターの LPA (リゾホスファチジン酸) の合成酵素であり、特発性肺線維症を始めとする複数の疾患において LPA やオートタキシンの亢進が見られ、新規治療薬の標的として注目されています。

以上